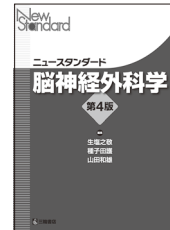


生塩之敬, 種子田護, 山田和雄 (編)

ニュースタダード脳神経外科学 第4版

安井 敏 裕

(クリニックいわた, 医師
大阪市立大学脳神経外科, 非常勤講師)



脳神経外科は1965年(昭和40年)に当時の医療法第70条に診療科名として正式に加えられ、「脳、脊髄および末梢神経の外科」と定義されました。現在では、脳神経外科は基本的診療領域に属し、わが国の医療・医学を支える根幹的な診療科となっています。全国の医学部があるすべての大学に脳神経外科学講座が設置されており、地域の基幹病院においても脳神経外科は欠くことのできない科となりました。

私は7年前に、医学部ではなく、リハビリテーション科のPT・OTの学生に脳神経外科学の講義をするよう依頼されました。使うべき教科書を探すために書店へ行ってみましたが、わかりやすさを追求するあまり、内容が簡略化されすぎて正確さを欠いている本も目立ち、結局は医師や医学部生が使う本しかありませんでした。どの本を教科書にするかを決め兼ねましたので、脳神経外科学の講義における当事者、すなわち私自身と受ける側の学生の両者のニーズができるだけ合致したものにしようという考えに至りました。そこで、当時かかっていた病院、診療所等に勤務している若いPT・OTに、「学生時代に脳神経外科の勉強もしたと思うが、どのような教科書がほしかったか」というヒアリングをしてみました。その結果、やはり一番は、わかりやすい

ことという予想通りの回答でしたが、その他は、国家試験対策に役立つこと、内容が新しいこと、あまり重くなく持ち運びやすいこと、卒業後も使えるレベルであること、基本と応用が分けて書いてあること(必須事項がわかること)、索引が豊富で調べやすいこと、してはならないこと(禁忌事項)がわかること等の意見でした。このようなニーズに応えられる本として私の目になったのが本書です。

本書は、脳神経外科医として長い経験をもつ私にとりましても、大変に有用な本です。私が脳神経外科医になった40年前には望み得なかった、贅沢な本だと思います。神経発生学も含めた脳神経外科学の全分野が、一流の著者により分担執筆されています。しかも、分担執筆者の偏りや独断を避けるために、それぞれが担当した章につき、別の著者が相互に厳密な審査をするという手順も加えられており、内容、レベルともに問題なく、安心して読めます。初版から15年経っていますが、このたび4回目の改訂が行われました。日進月歩の脳神経外科学の発展に歩調を合わせているところもすばらしいと思います。文字部分の記載内容は前述の通り正確で、時代に即したのですが、さらに理解を助けるための図・写真(モノクロのみでなくカラーも)、表

も多用されています。そのうえ、理解度の確認ができる「必須事項」、「症例」、「サマリー」の提示も別途なされています。また、巻末には「演習問題」および、その正答に対する的確な解説もあります。さらに、臨床現場では必須の禁忌に関する知識も、「禁忌事項」として別枠でわかりやすく記載されています。本書には「メモ」というかたちで、特定の疾患、症候、診断・治療上のポイント、最新知見の記載が多くなされており、若いPT・OT、学生だけでなく、私のようなベテラン医師にとっても、「目からうろこ」的な理解の助けになります。「メモ」だけを取り出しても、立派な有用な本になりそうです。

もともと本書は、脳神経外科学の講義や実習等をする際に、学生のみならず教える側にとってもよき助けになるものを手元に置くことを目的に作成された教科書です。この意図は以上に述べてきた通り、十分に実現されていると思います。私のようなベテラン脳神経外科医だけでなく、若いPT・OT諸君、学生諸君にとっても、非常に有用な本で、安心してお勧めできると考えます。

B5版 586頁 7,000円+税
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357